

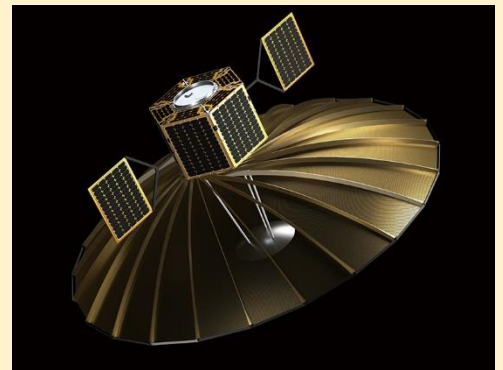
# 九州の宇宙産業

発行：福岡県青少年科学館 令和4年 2月

2020年9月、宇宙ビジネスの創出を積極的に推進する地方自治体に集中支援する「宇宙ビジネス創出推進自治体（S-NET 推進自治体）」に、福岡県と大分県が選定されました。これにより、宇宙ビジネスの事業化や事業推進の課題に対して専門家（宇宙ビジネス・コーディネーター）へ相談する機会の創設などの支援を受けることができるようになりました。今回は、これからが楽しみな九州の宇宙産業についてご紹介いたします。

## ①衛星機器分野

福岡市にある（株）QPS 研究所は、地表の準リアルタイム観測データ提供サービスの実現を目標に人工衛星の開発・運用を行っています。QPS 研究所の人工衛星は光学カメラではなくレーダーを使っているので、昼夜・天候に関係なく観測が可能です。2019年には1号機の小型 SAR 衛星「イザナギ」、2021年には2号機の「イザナミ」が打ち上がり、今後も毎年複数機打ち上げて、2025年以降は36機の人工衛星で世界中のほぼどんな場所でも平均約10分で観測し、特定地域の定点観測を可能にします。この人工衛星には北部九州の中小製造業で開発された部品が8割程度使用されています。久留米市近郊の中小製造業12社が集まったNPO法人 円陣スペースエンジニアリングチーム（e-SET）も、この人工衛星製造に関わっています。



QPS 研究所開発の SAR 衛星  
©株式会社 QPS 研究所



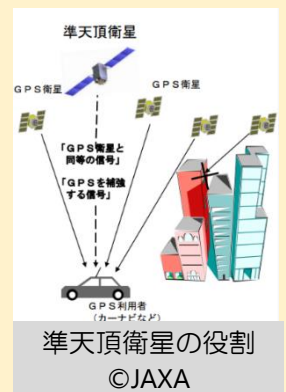
大型飛行機がロケットをリリース  
©ヴァージン・オービット/グレッグ・ロビンソン

## ②ロケット打ち上げ分野

2020年に大分県がヴァージン・オービット社（本社：アメリカ合衆国）とパートナーシップを締結し、大分空港が大型航空機でロケットを高度10kmまで運んで切離し、宇宙空間に打ち上げることができる「水平型宇宙港」となりました。この宇宙港選定はアジア初になります。2022年には大分空港からロケットが打ち上げられる予定です。水平型打ち上げは、垂直打ち上げ型のロケットと比べ、大幅な燃料削減が見込め、低コストでのロケット打ち上げが可能になります。

## ③衛星データ利用分野

大分県国東市にあるニュージャパンマリン九州（株）は、小型プレジャーボートの自動着岸・自動操舵装置の開発を目指しています。小型プレジャーボートは風や潮流の影響を受けやすいため、開発には高精度の位置情報が不可欠で、このデータを日本版GPSとも言われている「みちびき（準天頂衛星システム）」から取得して用いるようです。完成すれば安全な離着岸と艇体の船位保持が可能になります。このみちびきを活用した衛星データ利用ビジネスは内閣府の「2019年度みちびきを利用した実証実験公募」に採択されています。



準天頂衛星の役割  
©JAXA

今回、ご紹介した以外にも九州には宇宙産業を手掛けている企業が多くあります。九州には優れたものづくりの技術を有した企業も多いため、九州で開発・製造された人工衛星を九州内で打ち上げ、そのデータを九州内の企業が利用し、新たな技術を生みだしていく未来も近いかもしれません。